



投入する生ゴミは？

決まりは無いけど

分解されにくいもの

太い骨、貝殻、卵の殻、
トウモロコシの芯、
タマネギの外皮 等

入れてはいけないもの

プラスチック、腐ったゴミ、古い生ゴミ、竹くし

分解されやすいもの

野菜くず・果物の皮・ご飯・パン・菓子・茶殻・コーヒー殻・廃油・米ぬか・グリルの油・煮汁等

Q. 何をどう入れたらいいのか考えてしまう！

A. 難しく考える必要はありません。台所ゴミなら基本的に大丈夫。分解しにくいものが長期間残っていたら、後で取り出せばOK！イチゴ/みそパック一杯の生ゴミが約400～500gほどで適量です。古くなったお菓子やカビたみかんもきれいに分解してくれます。

Q. 温度が上がらず分解が遅い！

A. 基材の温度が5～10℃上がれば発酵の証拠。米ぬかや廃油、天かすを入れるとさらに温度が上がります。適度な水分と生ゴミの量に気をつけ、よくかき混ぜ空気をしっかり入れることが大切です。



Q. 始めたけれど、分解されないでやめました！

A. 基材の水分不足が考えられます。握って軽く団子になるくらいにしましょう。開始の1～2週間は微生物も少なく、分解がすすみません。(特に冬季)良くかき混ぜ、投入量を少なくし様子を見ます。米ぬか、廃油も試してみましょう。

Q. 臭いが出ないか心配！

A. 投入量や水分が多いとき、魚のあらなど生ものを入れたときなど臭いが出るときがあります。投入量を減らす、水をよく切る、魚は熱湯をかける、基材を増やす、コーヒー・茶殻を入れる等で改善します。

Q. 毎日投入したらすぐいっぱいになっちゃうんじゃない？

A. 上手に管理すれば、3～4ヶ月分解できます。1箱で30～40kgの処理が可能です。発酵がうまくいくと、面白いほど生ゴミがどんどん消えていきます。

Q. EM菌とか必要なの？

A. ダンボールコンポストは、自然に存在する普通の好気性微生物(カビや細菌類)だけで発酵をすすめます。特別な微生物(EM菌など)を入れる必要はありません。基材を入れることでたくさんの微生物が増殖できる環境を提供します。適度な水分と空気だけで元気に生ゴミを分解してくれます。米ぬかや廃油を加えるとさらに発酵がすすみます。

Q. たい肥(二次発酵)にするタイミングが分からない！

A. 3～4ヶ月後、箱が湿って膨らんだり、発酵が遅くなったら切替どき。その後は、生ゴミの投入を止め、水分を保ちながら、3～4週間ときどきかき混ぜ熟成させ、乾燥させたら完熟たい肥が完成！(別の容器を使用すると楽です)熟成前の基材の一部を新しいコンポストの基材に混ぜると発酵が早く始まり引き継ぎが楽です。

Q. 虫対策はどうしたらよいの？

A. コンポストに虫(卵)を入れない事です！ダンボール箱は必ず布で完全に覆い、台所の生ゴミ容器にフタをし、古い生ゴミを入れない、攪拌シャベルも箱に入れるようにします。虫が発生したときは、生ゴミを追加せず全体をゴミ袋で覆い、日なたに置いて温度を上げ虫を餓死させます。廃油で基材の温度を上げる事も効果的です。

「こんな時はどうしたらいいの？」

ダンボールコンポストに関する質問は、いつでもダンちゃん倶楽部へ



ダンちゃん(ダンボールコンポスト)を使ってゴミを減らし、素敵な街に

ダンちゃん倶楽部

問合せ、連絡先 事務局 TEL 080-3414-1441 / FAX 048-282-5668
E.M. hiromorikirakusya@gmail.com 代表: 守谷裕之

2025.01発行 (Rakusuru x 1000)



ダンちゃん倶楽部
オフィシャルブログ
QRコード

